



甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

No. 164



December 2008

日本未記録の特異なホソカタムシ *Pseudendestes andrewesi* (GROUVELLE) について

青木 淳一・生川 展行・田中 勇

On *Pseudendestes andrewesi* (GROUVELLE) Found from
Japan (Zopheridae)

Jun-ichi AOKI, Nobuyuki NARUKAWA and Isamu TANAKA

コブゴミムシダマシ科のホソカタムシ亜科の *Pseudendestes* 属には世界で5種、すなわち *P. andrewesi* (GROUVELLE, 1908), *P. australis* LAWRENCE, 1980, *P. robertsi* LAWRENCE, 1980, *P. lawrencei* PAL, 1984, *P. namdaphaensis* PAL, 1984 が知られている。今回、著者の一人、田中は沖縄県石垣島で本属の種と思われるものを採集し、青木と生川がともに研究した結果、インドから記載された *P. andrewesi* (GROUVELLE) に該当するものと判定し、ここに日本新記録種として報告する。

ムネナガホソカタムシ (新称)

Pseudendestes andrewesi (GROUVELLE)*Endestes andrewesi* GROUVELLE, 1908, p. 414, pl. 9, fig. 5.*Pseudendestes andrewesi*: LAWRENCE, 1980, p. 299.

極めて細長い体形から、一見してルイスホソカタムシに似るが、本属のものは前胸背が平滑でなく、2対の隆起線を伴い、体の表面は顆粒や凹穴で密に覆われている。本種の特徴については、日本産のものも含め、他の4種との比較を表1に示した。この比較の結果、石垣島で採集されたものは、その特徴が *P. andrewesi* とほぼ完全に一致し、重要な差異が認められず、*P. andrewesi* と断定した。なお、本種の原因記載に付された図は極めて小さく、他の4種のような精密な図が描かれていないので、ここに石垣島産の標本に基づいて全形図と触角のプレパラート標本による拡大図を描いて示した。触角の拡大図からもわかるとおり、その球桿部は他の節よりも明らかに幅広く大きく長毛の多い3節からなっていることが分かる。原記載の小さい図からも辛うじて読み取れる3節の球桿部がこれで証明される。触角I~VIII節は密生した微毛に覆われる。体長5.5mm前後。

採集記録: 5頭。沖縄県石垣島於茂登山山麓, 18-VI-2006. 田中 勇採集。

なお、LÖBL & SMETANA (2008) は *P. lawrencei* を *P. andrewesi* のシノニムとする処置をとっているが、表1からもわかるとおり、*P. lawrencei* は体型が極めて細長く、触角の球桿部の節数も2節であるので、明らかに別種と思われ、この処置は理解できない。

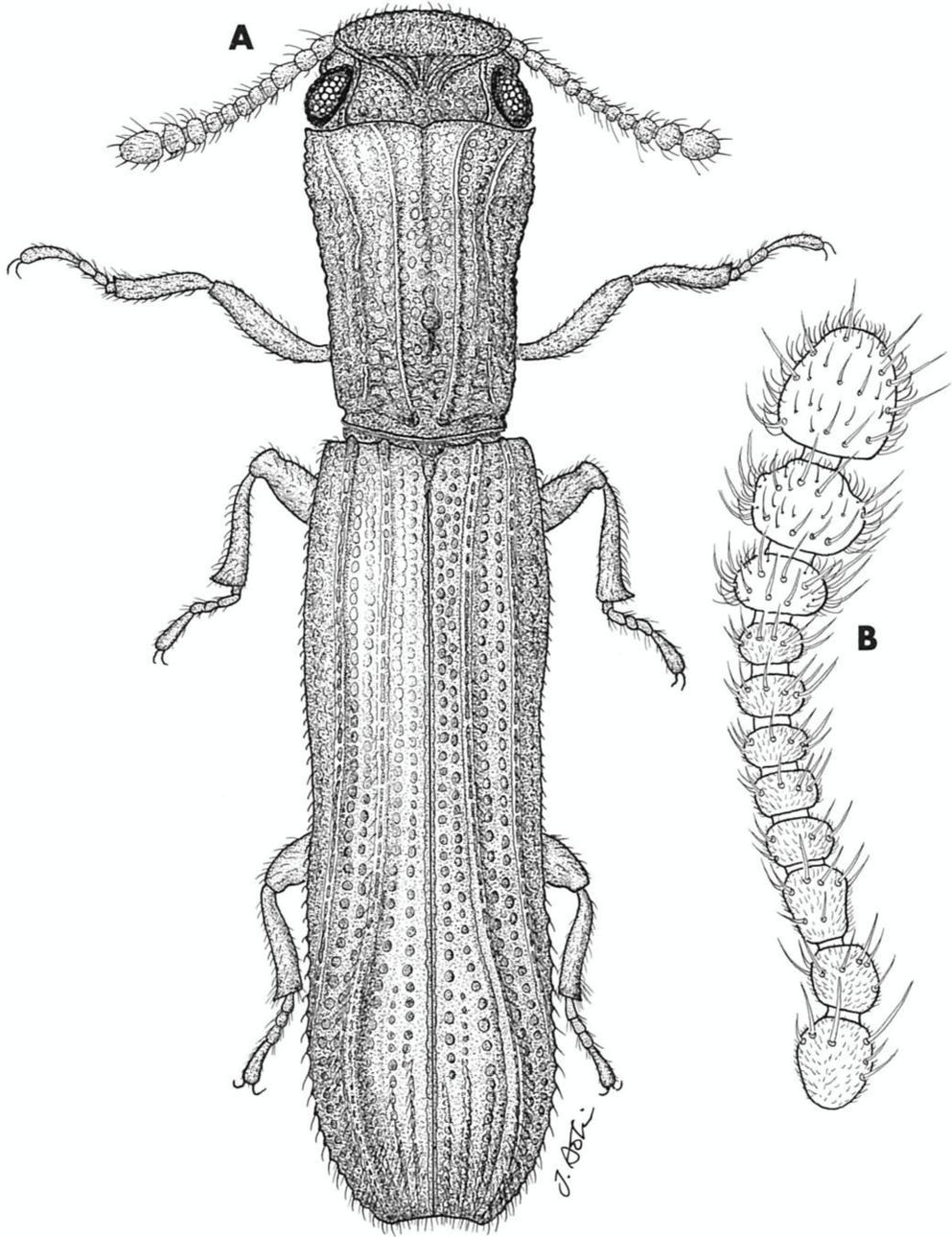


図1. ムネナガホソカタムシ *Pseudendestes andrewesi* (GROUVELLE). A: 背面図. B: 触角.

表 1. ムネナガホソカタムシ属 (*Pseudendestes*) の種の特徴の比較

	<i>robertsi</i>	<i>australis</i>	<i>lawrencei</i>	<i>andrewesi</i>	石垣島産	<i>namdaphaensis</i>
体型	太い	細い	ごく細い	細い	細い	ごく細い
(L/W)	(3.5)	(4.5)	(5.7)	(4.9)	(4.9)	(5.6)
体長 (mm)	8.5-9.6	4.6-6.0	4.5	5.5	4.6	8.8
触角球桿部	5~6 節	2 節	2 節	3 節	3 節	3 節
触角第 3 節	長い	普通	やや長い	?	長い	長い
眼上隆起	強い	弱い	弱い	弱い	弱い	強い
触角基部下隆起	強い	弱い	弱い	弱い	弱い	強い
前胸	幅広い	幅狭い	幅狭い	幅狭い	幅狭い	ごく幅狭い
(L/W)	(1.2)	(1.5)	(1.6)	(1.4)	(1.5)	(1.8)
前胸の形	中膨らむ	前方幅広	前方幅広	前方幅広	前方幅広	両側平行
前胸側縁	滑らか	鋸歯状	鋸歯状	鋸歯状	鋸歯状	滑らか
	毛列あり	毛列あり	毛列なし	毛列なし	毛列なし	毛列なし
上翅の形	幅広い	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	幅狭い
(L/W)	(2.5)	(3.2)	(3.2)	(3.0)	(3.1)	(4.7)
上翅縦隆起線	3 本	3 本	3 本	3 本	3 本	4 本
上翅端	凹まない	僅か凹む	僅か凹む	弱く凹む	弱く凹む	深く凹む
分布	New Guinea	Australia	India	India	Japan	India

文 献

- GROUVELLE, A., 1908. Coléoptères de la region Indienne. Rhysodidae, Trogositidae, Nitidulidae, Colydiidae, Cucujidae. *Annls. Soc. Ent. Fr.*, 77: 315-495, pls. 6-9.
- LAWRENCE, J. F., 1980. A new genus of Indo-Australian Gempylodini with notes on the constitution of the Colydiidae (Coleoptera). *J. Aust. Ent. Soc.*, 19: 293-310.
- PAL, T. K., 1984. Two new species of *Pseudendestes* LAWRENCE (Coleoptera: Colydiidae) from India. *Bull. Zool. Surv. India*, 6: 31-35.
- ŚLAPIŃSKI, R. & R. SCHUH, 2008. Family Zopheridae. In: Löbl, I. & A. Smetana(eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 5: 78-87, Apollo Books, Stenstrup.

(青木: 東京都港区)
 (生川: 三重県鈴鹿市)
 (田中: 兵庫県西宮市)

山梨県で採集した好蟻性甲虫

野村周平

Myrmecophilous Beetles Collected from Yamanashi Prefecture,
Central Honshu, Japan

Shûhei NOMURA

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館動物研究部

近年、山梨県内で甲虫採集を行う機会があり、数種の好蟻性甲虫を得ているので、以下に報告する。山梨県白州町は採集当時の名称および行政区分であって、2008年現在当該地は北杜市となっている。以下に示す好蟻性甲虫と宿主蟻の同定をいただいた、九州大学総合研究博物館の丸山宗利博士に厚く感謝の意を表す。以下のデータ中、採集者はすべて筆者である。

Histeridae エンマムシ科

1. *Hetaerius optatus* LEWIS クロアリヅカエンマムシ (図A)

〈採集データ〉1 ex., 白州町大武川溪谷, 標高約 300 m, ツルグレン抽出, 4. v. 2002; 1 ex., 大月市松姫峠, 標高約 1,250 m, FIT (NG-3), 1-8. vii. 2004.

Staphylinidae ハネカクシ科

2. *Lomechusa sinuata* (SHARP) ハケゲアリノスハネカクシ (図B)

〈採集データ〉1 ex., 白州町大武川溪谷, 標高約 300 m, クロヤマアリの巣より, 4. v. 2002; 1 ex., 韮崎市青木鉾泉, 標高約 1,100 m, ツルグレン抽出, 18. vii. 2002.

3. *Philetaerius elegans* SHARP オオズハイイロハネカクシ (図C)

〈採集データ〉1 ex., 白州町大武川溪谷, 標高約 250 m, クロクサアリの巣より, 18. vii. 2002.

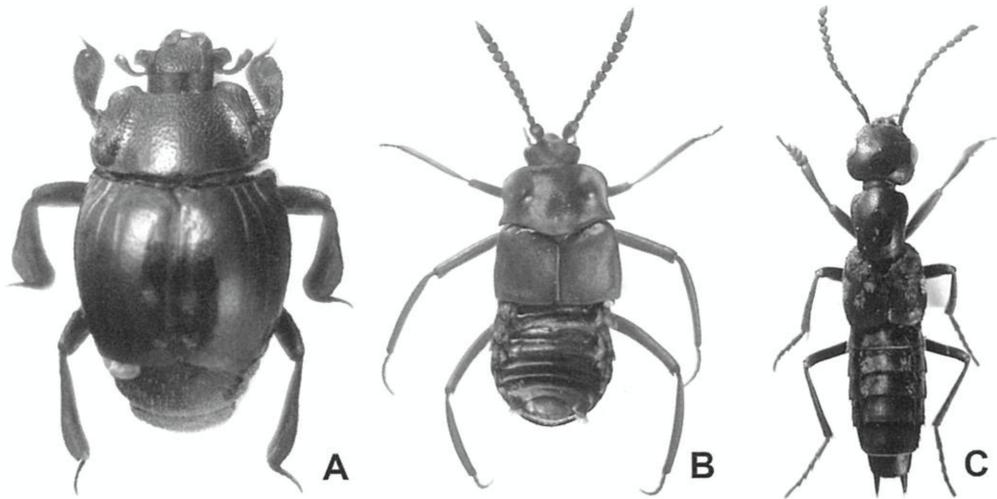


図 A. クロアリヅカエンマムシ (大月市産), B. ハケゲアリノスハネカクシ (韮崎市産), C. オオズハイイロハネカクシ (白州町産)。

キタクロベニコメツキ雄の形態について

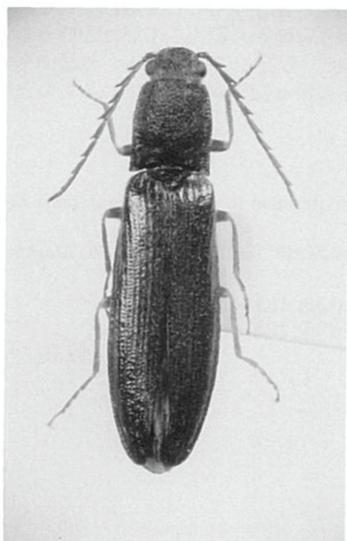
有本久之

Notes on the male structure of *Denticolloides hosokawai*
(Coleoptera, Elateridae) from Hokkaido, Japan

Hisayuki ARIMOTO

キタクロベニコメツキ *Denticolloides hosokawai* ARIMOTO, 2000 は、北海道の上士幌町三股で1983年7月1日に細川浩司氏が採集された1雌個体に基づき ARIMOTO (2000) が新種として記載した種である。その後、鈴木(2001)、芳賀(2001)により、それぞれ1雌個体が追加記録されている。

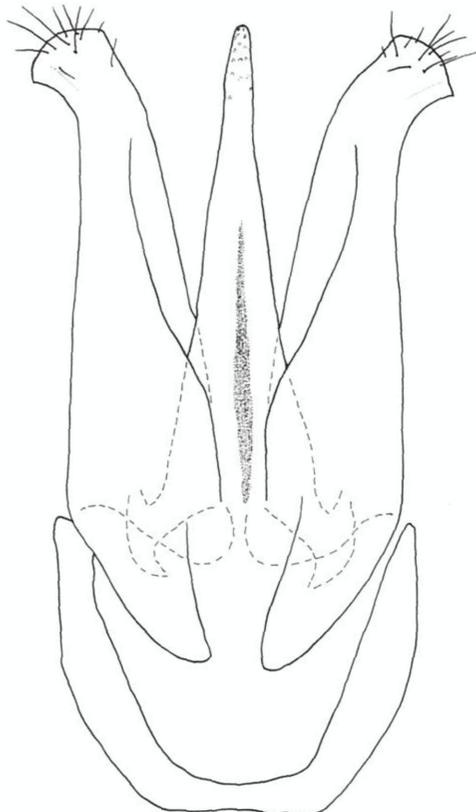
筆者は最近、豊嶋亮司氏のご好意により同氏が北海道で採集された本種の雄個体を検することが出来たの



1



2



3

Fig. 1. キタクロベニコメツキ *Denticolloides hosokawai* ARIMOTO, ♂.
Fig. 2. Right antennae.
Fig. 3. Male genitalia, dorsal view.

で、これまで未知であった雄の形態の概要を報告する。

貴重な標本の支援を頂いた豊嶋亮司氏に厚くお礼申し上げる。

調査標本

1♂, 北海道上川町石北峠 (標高約 1,000 m), 2005 年 6 月 18 日, 豊嶋亮司採集

本個体は豊嶋亮司氏によって、2005 年 6 月 18 日に北海道上川町石北峠 (標高約 1,000 m) にて枯れて間もないエゾマツの枝 (直径約 5 cm, 長さ約 50 cm) を札幌に持ち帰ったところ、2005 年 6 月 20 日にトドマツカミキリと共に羽化脱出したものである。

形態の概要

雄 (Fig. 1). 体長約 11.0 mm; 幅 2.5 mm. 体は扁平で細長く、両側は平行状、頭部と前胸背板は殆ど光沢がなく、上翅はにぶい光沢を有する。体色は頭部、前胸背板および体下面は黒色、触角と上翅は黒褐色、肢は茶褐色である。体背面は赤黄褐色の針状毛をややまばらに装い、体下面は乳白色の針状毛で覆われる。

頭部は複眼間で三角形に強く凹み、前縁は前方へ弧状に突出する、表面は粗雑で大型、へそ状 (二重状) の点刻を密に印する。触角 (Fig. 2) は長く、前胸背板の後角より末端 3 節ほど後方に伸長する。第 2 節は非常に短小で長さより幅広い、第 3 節は長く第 2 節の約 3.4 倍、第 4 節は第 3 節の約 1.3 倍の長さで、第 5 節とはほぼ等長である、第 4 節から第 10 節までは鋭い鋸歯状を呈し、各節の外側に縦隆線は生じない。

前胸背板は中央部で長さと同幅がほぼ等長、両側は弱く弧状で中央部で最も幅広い、背面はやや膨隆し、側縁部は平圧される、表面は粗雑で大型のへそ状点刻を密に印するが、大きさにはややばらつきがある、後角は短く後外方へわずかに突出し、先端は鈍く尖り、各背面には隆起線を有さない。前胸腹板突起は細長く、側面から見たとき、前肢基節腔を超えて内方に弱く湾曲し、そこから真直ぐ後方に伸張し、末端近くで上面に段刻を生じる。小盾板は舌状で強く膨隆するが、側縁部は平圧される。

上翅は細長く肩部幅の約 3.1 倍の長さ、基部 2/3 は平行状、そこから先端に向かって湾曲して漸次細まる、背面は概ね平ら、第 1, 2 条線はやや不明瞭、不規則で深い点刻列を備える。間室部はわずかに隆起し、不規則な横皺状を呈する。

肢の第 2~4 跗節の末端部の下側はわずかに膜状に伸展し、第 4 節は他の節より明瞭である。

交尾器 (Fig. 3) の中央突起は細長く、基部から先端部に向かって漸次細まり先端部は鈍く尖る。側突起の先端部は弧状で外縁角は後外方へ尖る。

雌の一般外形は雄に似るが、触角は短く末端節は前胸背板後角の先端にとどく程度で雄との区別は容易である。

その他

Denticoloides 属は GURJEVA (1963) によって設立されたが、その記載文では属の特徴の一つとして雄の第 6 腹節 (第 1, 2 腹節は隠れていて見えないため実際には第 8 腹節である) が露出することをあげている。今回得られた個体の生存時の状態を豊嶋氏にお尋ねしたところ、第 6 腹節は生存時から露出していたということであった。また、雌においても本種のホロタイプの第 6 腹節は露出しており、芳賀 (2001) の発表した雌の全形写真は第 6 腹節が露出していると判断できる。したがって本種は雌雄ともに第 6 腹節が露出しているものと思われる。

引用文献

- ARIMOTO, H., 2000. A new species of the genus *Denticoloides* (Coleoptera, Elateridae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, 28: 369-372.
- GURJEVA, E. L., 1963. A new elaterid genus (Coleoptera, Elateridae) from the North Tien-Shan. *Zool. Zh., Moskva*, 42: 1410-1412, 5 figs. (In Russian with English summary.)
- 芳賀 肇, 2001. キタクロベニコメツキを足寄町糠南川で採集. 甲虫ニュース, (136): 12.
- 鈴木 互, 2001. 大雪山におけるキタクロベニコメツキの記録. 甲虫ニュース, (135): 10.

(大阪市住吉区)

山梨県で FIT により採集したアリヅカムシ

野村 周平

Pselaphine Beetles Collected by FIT from Yamanashi Prefecture,
Central Honshu, Japan

Shûhei NOMURA

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館動物研究部

FIT (フライト・インターセプト・トラップ) は各種の甲虫を採集する方法として近年注目を集めつつある。筆者もすでにチシマキカワアリヅカムシ (NOMURA, 2005) やキタナガアリヅカムシ (NOMURA, 2007a), センニトゲアリヅカムシ (NOMURA, 2007b) などの記録を公表しているが、特に日本本土において、どのような種がコンスタントに採集されるかについては十分に解明されていないように思う。2004年夏に山梨県で FIT により、いくらかのアリヅカムシを採集したので以下に報告する。

FIT 採集には 2 種類のトラップを使用した。一つは高所に吊り下げて使うもので、地面に対して垂直な衝突板の寸法がタテ約 110 cm, ヨコ約 85 cm のひし形に近く、屋根のある吊り下げ式のタイプである。これを NHP-1 と称し、地上約 7~9 m の樹上に設置した (図 1A)。このタイプにより採集されたものは以下のリスト中では HP と略記した。またもう一つは立木に張り渡して地面に垂直に立てて使うもので、衝突板の寸法はタテ約 94 cm, ヨコ約 142 cm の変五角形 (ホームベース型) となるものである。これを NG-3 と称し (図 1B), 採集地名の後に G を付記することによって示した。参考までにこれらのトラップのデザインは、前者は NOMURA, SAKCHOOWONG and CHANPAISAENG (2008) によって、後者は NOMURA and IDRIS (2004) によってすでに公表されている。



図 1. 採集に用いた 2 種の FIT。— A. 高所 FIT, B. 地上 FIT.

〈採集データ〉

「小菅」と略記: 山梨県小菅村雄滝 (標高約 900 m), 1-8. vii. 2004, 野村周平採集。

「松姫」と略記: 山梨県大月市松姫峠 (標高 1,250 m), 1-8. vii. 2004, 野村周平採集。

〈採集結果〉

Staphylinidae ハネカクシ科: Pselaphinae アリヅカムシ亜科

Euplectitae ナガアリヅカムシ上族

1. *Euplectus* sp. 1 (図 2A) 1♀ 松姫 G.

2. *E.* sp. 2 (図 2B) 1♀ 松姫 G.

3. *Piptoncus* sp. (図 2C) 1♀ 松姫 G.

Batrisitae ムネトゲアリヅカムシ上族

4. *Batrisodes (Excavodes) dorsalis* JEANNEL タカオトゲアリヅカムシ (図 2D) 1♂ 小菅 G, 1♂ 松姫 G.

5. *B. (Batrisodes) galloisi* JEANNEL ガロアオニアリヅカムシ (図2E) 1♂松姫G.
 6. *B. (E.)* sp. (*angustus* group) (図2F) 1♂松姫G.
 7. *Petaloscopus* sp. (図2G) 1♂小菅G, 2♂松姫G.
 8. *Batrisodellus* sp. (図2H) 1♂松姫G.
 9. *Batrisus politus* SHARP エグリチイロアリヅカムシ (図2I) 1♂松姫G.
 10. *Tribasodes* sp. (図2J) 1♂松姫G.
 11. *Batrisoplilus* sp. (図2K) 1♂松姫G.
 12. *Batriscenellus (Batriscenellus) fallax* (SHARP) ヒメハラクボアリヅカムシ (図2L) 1♂松姫G.
 13. *B. (Scaioscenellus) similis* (SHARP) アナバラアリヅカムシ (図2M) 1♂小菅HP, 1♂小菅G, 1♂松姫G.
 14. *B. (Nipponoscenellus) transformis* NOMURA ニッポンアナバラアリヅカムシ (図2N) 1♂松姫G.
 15. *B. (Batriscenellinus) uenoi* NOMURA ウエノツヤアリヅカムシ (図2O) 1♂小菅HP.
- Goniaceritae オノヒゲアリヅカムシ上族
16. *Bryaxis harmandi* RAFFRAY アルマンオノヒゲアリヅカムシ (図2P) 1♂小菅G, 1♂松姫G.
 17. *B. jomon* LÖBT et al. ジョウモンオノヒゲアリヅカムシ (図2Q) 1♂小菅G, 3♂松姫G.
 18. *B. japonicus* (SHARP) ヤマトオノヒゲアリヅカムシ (図2R) 2♂松姫G.
 19. *Bythoxenites frontalis* LÖBL et Kurbatov (図2S) 1♂小菅, 1♂松姫G.

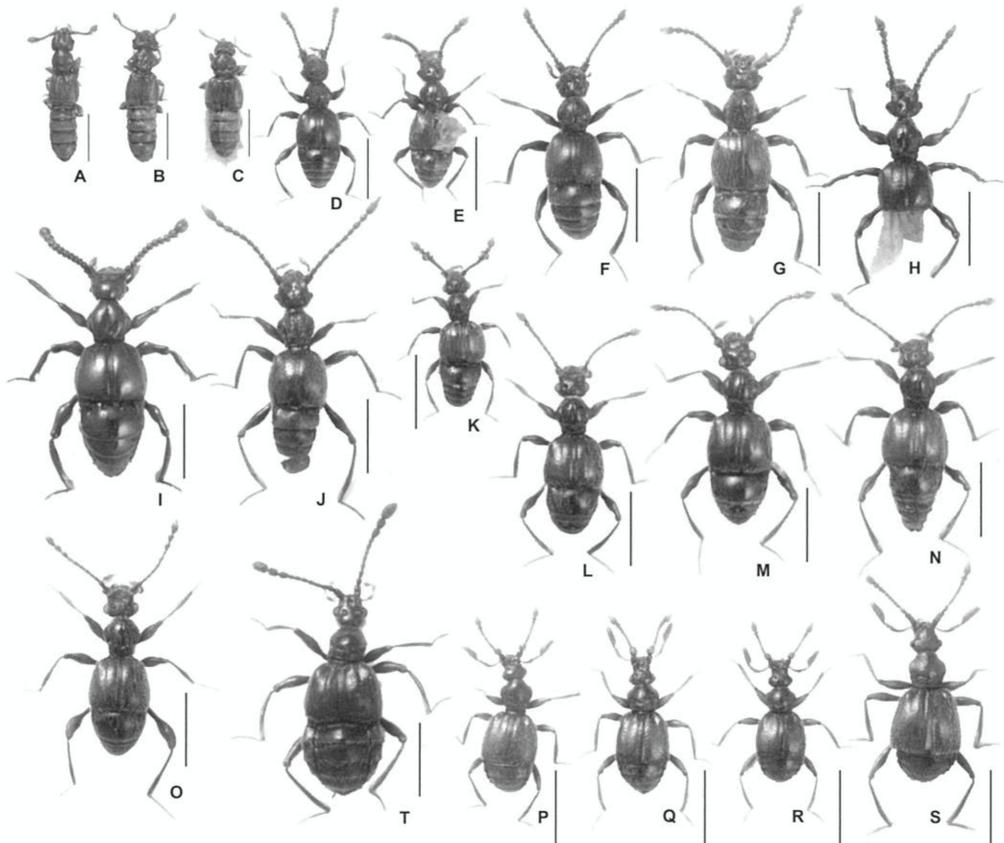


図2. 採集されたアリヅカムシ (以下, 和名語尾の「-アリヅカムシ」は省略). —A. *Euplectus* sp. 1, B. *E.* sp. 2, C. *Piptoncus* sp. (A~Cのスケールは0.5 mm), D. タカオトゲ, E. ガロアオニ, F. *Batrisodes (Excavodes)* sp. (*angustus* group), G. *Petaloscopus* sp., H. *Batrisodellus* sp., I. エグリチイロ, J. *Tribasodes* sp., K. *Batrisoplilus* sp., L. ヒメハラクボ, M. アナバラ, N. ニッポンアナバラ, O. ウエノツヤ, P. アルマンオノヒゲ, Q. ジョウモンオノヒゲ, R. ヤマトオノヒゲ, S. *Bythoxenites frontalis* LÖBL et KURBATOV, T. *Tyrus japonicus* SHARP (D~Tのスケールは1 mm).

Pselaphitae ヒゲナガアリヅカムシ上族

20. *Tyrus japonicus* SHARP (図 2T) 1♀小菅 HP.

〈考察〉

上に示すように、わずか 1 回 2 ヶ所の採集で 20 種ものアリヅカムシが採集された。これらは通常ツルグレン装置などで地表の落葉土中から採集される種とはかなり違っている。例えば、3, 5~7, 10, 20 の種は落葉土中からはほとんど発見されない。

その一方で、これらはマレーストラップで採集される種と非常に多く共通している。山梨県下では、森林総合研究所の大澤正嗣氏が 2 種のマレーストラップによって多数のアリヅカムシを採集しており、筆者はそれらの同定にあたった。2008 年 6 月現在それらはまだ発表されていないが、5~10, 12, 14, 15, 17 の 10 種はマレーストラップでも採集されている。

これらのことから、地上 10 m 以内で FIT やマレーストラップによって採集される空中浮遊性のアリヅカムシは、落葉土中のアリヅカムシ群集とはかなり種構成が異なっていることが予想される。

参考文献

- NOMURA, S., 2005. The first record of *Bibloporus ponderosus* KURBATOV (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from Honshu, Japan. *Elytra, Tokyo*, 33: 224.
- NOMURA, S., 2007a. New records of two little-known species of the genus *Euplectus* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from Honshu and Shikoku, Japan. *Elytra, Tokyo*, 35: 297-298.
- NOMURA, S., 2007b. Taxonomical notes on the Japanese species of the genus *Batrissodes* REITTER, with a description of a new species from Yonagunijima Island of the Ryukyus (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae). *Entomological Review of Japan, Osaka*, 62: 51-61.
- NOMURA, S. and A. G. IDRIS, 2004. A new species of the genus *Awas* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from the Malay Peninsula. *Elytra, Tokyo*, 32: 329-335.
- NOMURA, S., W. SAKCHOOWONG and J. CHANPAISAENG, 2008. Taxonomical notes on the Southeast Asian species of the clavigerine genus *Articerodes* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, (A)*, 34: 1-20.

福井県産オオルリハムシ標本の正体

斎藤昌弘

オオルリハムシ *Chrysolina virgata* (MOTSCHULSKY) は、ハムシ科、ハムシ亜科に属する大形美麗種で、極東シベリア・中国・朝鮮半島および日本（本州の東北部と東海・中国地方の一部、佐渡島、九州）に分布する（木元, 1994; 岩井・八木, 2003; SOTA *et al.*, 2004; 宮田, 2003）。中部日本海側では、新潟県内地、佐渡島、石川県能登半島（岩井・八木, 2003; 井村・西原, 1997）から記録されている。尚、東海の産地であった三重県においては絶滅とされた（三重県, 2005）。

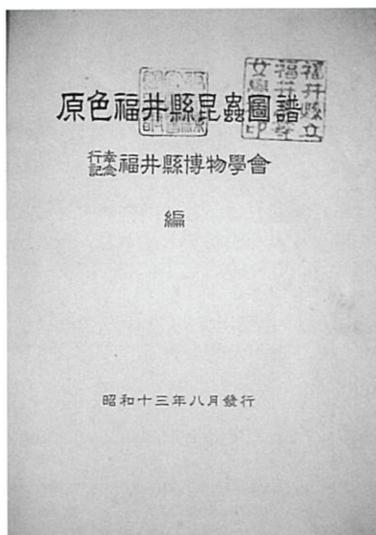
福井県では、現在まで、僅か 1 例のみが下記に図示記録されている。

福井県博物学会編 (1938). 『原色福井県昆虫図譜』 (以下『図譜』), Pl. 14, No. 26 (図 1, 2). / データ: 吉田郡西藤島村 (現福井市三郎丸町), 1933 年 6 月 23 日, 西藤島小学校提出, 同定者不明。

この『図譜』は、1933 年に福井県内の教育関係総動員で行なわれた調査結果をまとめて公刊されたもので、その充実した内容は、当時の諸状況を考慮すれば全国的にも稀有な成果である。図版に掲載された標本は“天覧標本”として戦時中にも厳重な保護を受け、プレート配列状態のまま今日まで福井大学教育地域科学部に保管されており、再確認を行なう事が出来る（ただし、標本の一部は虫害で失われている）。

筆者は、福井県産オオルリハムシの再発見に関心を持ってきたが、一方、以前より『図譜』の標本写真に疑問を抱いていた。写真は、あまり鮮明良好ではなく、手元の現物標本と比較して雰囲気異なり、別種のようにも思われた。この度、福井大学に保管されている標本を検査する機会を得、オオサルハムシ *Chrysochus chinensis* BALY (図 3) の誤同定であることを確認した。『図譜』記載の際に“オオサル”を“オオルリ”と書き違えた可能性も考えたが、学名はオオルリハムシのものである。オオサルハムシは、福井県では未記録であり、『図譜』掲載の標本を福井県産ではないとする証拠は特にない。以上の結果、福井県産ハムシ科から、オオルリハムシを削除し、オオサルハムシを追加する（データは上記図譜と同じ）。

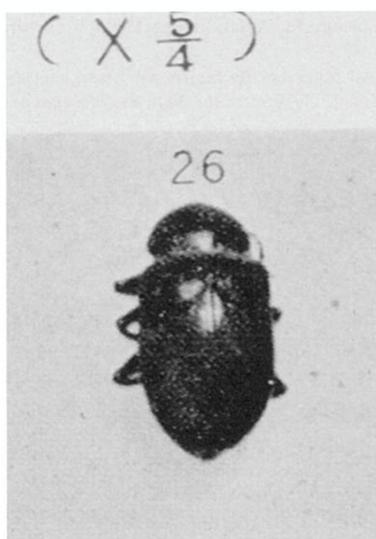
末筆ながら、図譜の標本閲覧の労を取られた福井大学教育地域科学部生物学教室保科英人准教授、本稿の校閲およびコメントを頂いた富山大学大学院理工学研究部生物学教室の鈴木邦雄教授、三重県のオオルリハムシの状況についてご教示頂いた乙部 宏氏（三重県津市）及び生川展行氏（三重県鈴鹿市）に深謝申し上げる。



1



2



3



4

図1~4. 1,「図譜」中表紙; 2, 第14図版; 3, 図26; 4, 現物標本.

文 献

- 福井県博物館編, 1938.『原色福井県昆虫図譜』, 72 pls. 福井県.
 井村正行・西原昇吾, 1997. オオルリハムシの記録. *TOBU*, (126): 5.
 岩井大輔・八木 剛, 2003. 日本におけるオオルリハムシの地理的分布. *昆虫 (ニューシリーズ)*, **6**: 105-110.
 木元新作, 1994. 成虫篇. In: 木元新作・滝沢春雄『日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(i-xxvii+539 pp. 133 pls): 1-364, pls. 1-88. 東海大学出版会, 東京.
 宮田 彬, 2003. オオルリハムシ大分県久重町に産す. *月刊むし*, (394): 4-5.
 三重県, 2005. レッドデータブック動物. 498 pp.
 SOTA, T., M. HAYASHI & D. IWAI, 2004. Phylogeography of the leaf beetle *Chrysolina virgata* in wetlands of Japan inferred from the distribution of mitochondrial haplotypes. *Entomological Science*, **7**: 381-388.
 (〒913-0016 福井県坂井市三国町三国東 4-3-23-115)

群馬県で採集した流水性甲虫類

林 成 多

Aquatic Coleoptera collected from rivers and streams in Gunma Prefecture

Masakazu HAYASHI

群馬県での流水性甲虫相の解明度は、関東地方の他県に比べていちじるしく低い。とりわけ、ヒメドロムシ科の記録は、野村鎮のヒメドロムシ類の記載論文を除けば、ほとんどないのが現状である。最近では隣の埼玉県からもまとまったヒメドロムシ科の記録が報告され（新井，2007），群馬県は関東でのヒメドロムシ調査の空白域となっている。筆者は群馬県出身ということもあり，かねてより当地の調査を行いたいと考えていた。そこで，2006年から2008年に榛名山周辺の数カ所で調査を行い，若干の成果を得ることができた。本報告では，流水域で採集したいくつかの甲虫類の分類群について，これまでのデータの訂正も含めて記録する。なお，地名は採集時のものを採用した。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

1. ゴマダラチビゲンゴロウ *Oreodytes natrrix* (SHARP)
3 exs.+2 L, 桐生市相生町3丁目 渡瀬川, 1.IX.2007.
Lは幼虫の頭数を示す（以下同様）。幼虫は成虫と共に川辺の砂にもぐっていた。
2. モンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (SHARP)
1 ex., 高崎市箕郷町榛名山 車川源流, 8.IX.2007.
3. コクロマメゲンゴロウ *Platambus insolitus* (SHARP)
1 ex., 高崎市榛名山町杜家町 榛名川, 3.IX.2007.

ミズスマシ科 Gyrinidae

4. オナガミズスマシ *Orectochilus regimbarti regimbarti* SHARP
4 exs., 吾妻町萩生, 28.VIII.1997.

ガムシ科 Hydropphilidae

5. コモンジミガムシ *Laccobius oscillans* SHARP
2 exs., 桐生市相生町3丁目 渡瀬川, 1.IX.2007.

ダルマガムシ科 Hydraenidae

6. セスジダルマガムシ *Ochthebius inermis* SHARP 【訂正】
5 exs., 鬼石町三波川, 13.V.1995.

林(2000)において，コセスジダルマガムシとして報告したが，本種の誤りであったので訂正する。セスジダルマガムシの同定において，上唇のくぼみの無いことが区別点とされるが，この個体は上唇にくぼみが認められた（図1）。

マルハナノミ科 Scirtidae

7. クロマルハナノミ *Odeles wilsoni* (PIC)
2 L, 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 2.I.2008.
1 L, 高崎市箕郷町中野 駒寄 ぐんまの松 車川, 5.I.2008.

ヒラタドロムシ科 Psephenidae

8. ヒラタドロムシ *Mataeopsephus japonicus* (MATSUMURA)
1 L, 桐生市相生町3丁目 渡瀬川, 1.IX.2007.
9. マスダチビヒラタドロムシ *Malacopsephenoides japonicus* (MASUDA)
1 L, 高崎市金古町大塚 染谷川, 3.I.2007.
19 L, 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 3.I.2007.
1 L, 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 2.IX.2007.
マスダチビヒラタドロムシの幼虫は，チビヒゲナガハナノミと共に榛名山山麓の河川では普通にみられる。

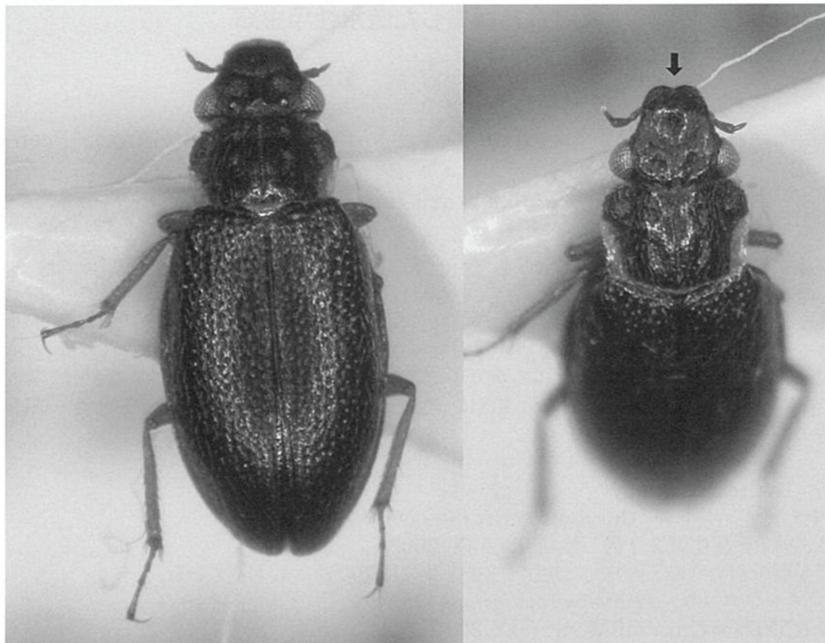


図1 上唇の先端が窪んだセスジダルマガムシ

10. チビヒゲナガハナノミ *Ectopria opaca opaca* (KIESENWETTER)
 3 L, 高崎市上室田町上の原 滑川支流, 3.IX.2007.
 2 L, 高崎市金古町大塚 染谷川, 2.I.2007.
 6 L, 高崎市箕郷町柏木沢 唐沢川支流, 4.I.2007.

ヒメドロムシ科 Elmidae

11. アカモンミゾドロムシ *Ordobrevia maculata* (NOMURA)
 1 ex., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 3.I.2008.
 12. ゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi* NOMURA
 2 exs., 高崎市榛名山町社家町 榛名川, 3.IX.2007.
 13. セアカヒメドロムシ *Optioservus maculatus* NOMURA
 13 exs., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 20.-21. X. 2006.
 5 exs., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 4.IX.2007.
 10 exs., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 2.I.2008.
 1 ex., 高崎市箕郷町中野 駒寄 ぐんまの松 車川, 5.I.2008.
 6 exs., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 6.IX.2008.

セアカヒメドロムシはNOMURA (1958) によって群馬県のOzeから記録されている。近縁種のスネアカヒメドロムシ *O. variabilis* NOMURA は、群馬県のTokuraが基準産地となっている(NOMURA, 1958)。また、同じ属のクボタマルヒメドロムシ *O. kubotai* Nomura は群馬県のOzeから記録されている(NOMURA, 1958)。セアカヒメドロムシは西日本では多い種であるが、関東地方ではほとんど記録のない種である(例えば、新井, 2007)。

14. マルヒメドロムシ属の一種 *Optioservus* sp.
 35 exs., 高崎市箕郷町榛名山 車川源流, 8.IX.2007.
 スネアカヒメドロムシに似ているが、脛節の色が完全に黒い。上翅は4紋型がほとんどであるが、2個体は上翅全体が黄色であった。
 15. ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* NOMURA
 1 ex., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 20.-21. X. 2006.
 18 exs., 高崎市箕郷町上芝 栄橋 榛名白川, 19. X. 2006.
 20 exs., 高崎市箕郷町中野 駒寄 ぐんまの松 車川, 19. X. 2006.

- 21 exs., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 2. IX. 2007.
 2 exs., 高崎市榛名山町社家町 榛名川, 3. IX. 2007.
 2 exs., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 4. IX. 2007.
 8 exs., 高崎市金古町大塚 染谷川, 31. VIII. 2007.
 4 exs., 桐生市相生町3丁目 渡瀬川, 1. IX. 2007.
 6 exs., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 2. I. 2008.
 多数, 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 3. I. 2008.
 21 exs., 高崎市箕郷町中野 駒寄 ぐんまの松 車川, 5. I. 2008.
 7 exs., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 6. IX. 2008.
 2 exs., 高崎市箕郷町榛名山 車川源流, 8. IX. 2007.
 ツヤヒメドロムシは榛名山山麓の河川では最も普通にみられる種である。
16. ツヤナガアシドロムシ *Grouvellinus nitidus* NOMURA
 2 exs., 高崎市箕郷町上芝 栄橋 榛名白川, 19. X. 2006.
 1 ex., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 2. IX. 2007.
 2 exs., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 3. I. 2008.
 2 exs., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 3. I. 2008.
 ツヤナガアシドロムシは NOMURA (1963) によって群馬県の Shimonida から記録されている。
17. マルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* (NOMURA)
 2 exs., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 2. IX. 2007.
 2 exs., 高崎市金古町大塚 染谷川, 31. VIII. 2007.
 9 exs., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 3. I. 2008.
18. ツヤドロムシ *Zaitzevia nitida* NOMURA
 2 exs., 高崎市箕郷町中野 駒寄 ぐんまの松 車川, 19. X. 2006.
 4 exs., 桐生市相生町3丁目 渡瀬川, 1. IX. 2007.
 2 exs., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 3. I. 2008.
 1 ex., 高崎市箕郷町中野 駒寄 ぐんまの松 車川, 5. I. 2008.
 ツヤドロムシは NOMURA (1963) によって群馬県の Shimonida から記録されている。
19. ミゾツヤドロムシ *Zaitzevia rivalis* NOMURA
 7 exs., 高崎市箕郷町上芝 栄橋 榛名白川, 19. X. 2006.
 9 exs., 高崎市箕郷町中野 駒寄 ぐんまの松 車川, 19. X. 2006.
 1 ex., 桐生市相生町3丁目 渡瀬川, 1. IX. 2007.
 7 exs., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 2. IX. 2007.
 1 ex., 高崎市上室田町上の原 滑川支流, 3. IX. 2007.
 11 exs., 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 3. I. 2008.
 5 exs., 高崎市箕郷町中野 駒寄 ぐんまの松 車川, 5. I. 2008.
 4 exs., 高崎市箕郷町松之沢 はるな郷の北側 大沢川, 6. IX. 2008.
 1 ex., 高崎市箕郷町榛名山 車川源流, 8. IX. 2007.
 群馬県産のミゾツヤドロムシは上翅基部の点刻が小さく、アワツヤドロムシに似ている個体が多い。

ホタル科 Lampyridae

20. ゲンジボタル *Luciola cruciata* MOTSCHULSKY
 1 L, 高崎市箕郷町西明屋 榛名白川, 2. IX. 2007.

以上、不十分な調査であるが、8科20種を現時点のまとめとして記録した。今後も調査を継続したい。また、地元で興味のある方がいられば、ぜひ調査を行ってみたいだろうか。特にヒメドロムシの分布確認はお勧めしたい調査である。

引用文献

- 新井浩二, 2007. 埼玉県のヒメドロムシ類 寄せ蛾記, (125): 1-21.
 林 成多, 2000. 流水性ゲンゴロウ・セスジダルマガムシ類の記録. 月刊むし, (358): 42.
 NOMURA, S., 1958. Notes on the Japanese Dryopoidea (Coleoptera), with two species from Saghalien. *Toho-Gakuho*, (8): 1-15.
 NOMURA, S., 1963. Note on the Dryopoidea (Coleoptera) IV. *Toho-Gakuho*, (13): 41-56, 1 pl.
 ((財)ホシザキグリーン財団)

セスジマルドロムシの再発見

秋 田 勝 己

セスジマルドロムシ *Georissus* (*Nipponogeorissus*) *granulosus* M. SATO は、1958 年 8 月 23 日、三重県津市古河 (市橋ほか, 1985 によると「古河南町」. 現在この町名は存在せず, 「西古河町」もしくは「東古河町」) で灯火に飛来した 1♀ により記載された種で、同時にこの 1 種をもって亜属が設けられた (SATO, 1972). 本亜属は世界的にみても大変特異であり、本種のほかにはニューギニア産の 1 種が含まれるだけである (HANSEN, 1999). しかし、1958 年に得られたホロタイプ以来、追加の標本は得られていない (佐藤 1981, 1985; 市橋ほか 1985, 1994). そのことから、環境省レッドリスト、三重県レッドデータブックではいずれも「情報不足 (DD)」のカテゴリーに入れられている。

筆者は、50 年ぶりにこの種を採集し、その生息環境を発見することができたので報告する。

1 頭、三重県伊勢市磯町宮川 (Iso-chô, Miya-gawa Riv.) 8. VI. 2008, 筆者採集; 6 頭、同地、16. VI. 2008, 筆者採集; 14 頭、同地、19. X. 2008, 筆者採集。

採集地は大台ヶ原山を源流とし伊勢湾に注ぐ宮川の下流中州周辺の河口干潟である (写真). 非常に良好な干潟で、「希少野生動植物主要生息生育地 (ホットスポットみえ)」に指定されており、本種のほかにも多くの潮間帯に特有の甲虫が採集された。これらについては別に発表したい。採集個体は干潮時に湿った礫まじりの砂上にいたもので、この部分は満潮時には水中に没する。満潮時に足で水底をかき回したところ、水中を浮遊する個体も確認することができた。

6 月の採集品は、破損した個体が混じていたものの、10 月の個体は新鮮であった。また、個体数も多かったことから、夏～秋に成虫が出現、成虫で越冬し、初夏まで生存するものと推定される。北米産の同属種 *G. californicus* LeCONTE では、そのような生活史をもつことがすでに判明している (SHEPARD, 2003)。

基準産地の津市古河は、安濃川のほとりにある町であることから、ホロタイプ標本はこの川から灯火に飛来したものと推定される。現在は下流に潮止堰が建設されていることから、かつて本種が生息したと思われる地点に海水は遡上せず、本種も生息しえないものと思われる。

10 年以上前、本種の記載者 (故) 佐藤正孝博士にマルドロムシの採集方法をうかがったことがある。そのお



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

写真 1. セスジマルドロムシ (吉富撮影)

写真 2~4. 生息地

りに「河原の砂をじっと見ていたら動くから……。」とご教示いただいた。今回はまさにそのような方法で採集することができたものである。また、今年(2008年)7月、本種の最初の採集者で三重県の甲虫相の解明に多大な貢献をされた市橋甫氏が急逝された。今回、市橋氏による最初の発見からちょうど50年目、佐藤博士の記載から36年目にしてようやく本種の再発見がなされた。このことを両氏にお聞かせすることができなかったことが残念でならない。

文末ながら、吉富博之博士((株)環境指標生物)には、本種の同定、標本写真撮影ほかいろいろご教示いただいた。感謝したい。

参考文献

- HANSEN, M., 1999. Hydrophiloidea (Coleoptera). In Hansen, M. (ed.), *World Catalogue of Insects*, 2. Apollo Books, Stenstrup, 416 pp.
- 市橋 甫・生川展行・天春明吉, 1985. 三重県の記録の少ない甲虫類, ひらくら, 29(3): 35-48.
- 市橋 甫・久保田耕平・秋田勝己・今村隆一・生川展行, 1994. 三重県の甲虫類, 三重の生物, 172-203, 三重生物教育会, 津.
- 三重県環境森林部自然環境室, 2006. 三重県レッドデータブック 2005 動物, 三重県環境保全事業団, 津, 498 pp.
- SATŌ, M., 1972. The Georissid Beetles of Japan. *The Journal of Nagoya Women's College*, (18): 207-213.
- , 1976. Family Georissidae. *Check-List of Coleoptera of Japan*, (5): 1-2.
- 佐藤正孝, 1981. 日本産マルドロムシ科概説, 甲虫ニュース (53): 1-4.
- 佐藤正孝, 1985. マルドロムシ科, 上野俊一ほか編, 原色日本甲虫図鑑 2: 205-206 [incl. pl. 37]. 保育社, 大阪.
- SHEPARD, W. D., 2003. The Biology of *Georissus californicus* LÉCONTE (Coleoptera, Hydrophilidae, Georissinae), *Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology*, Tokyo, (6): 121-128.

○香川県から採集されたハネカクシ科甲虫 2 種の記録

香川県内で採集したハネカクシを柴田泰利氏に同定していただいたところ、分布上興味深い種類が2種類見出されたので報告する。すべて藤本採集、柴田泰利氏同定・保管である。

1. *Scopaeus testaceus* MOTSCHULSKY

1♂, 香川県丸亀市広島町江の浦, 22. VII. 2005.
1♂2♀♀, 香川県丸亀市土器町東・土器川河口, 27. VI. 2008.

丸亀市広島町は瀬戸内海に浮かぶ離島で、海岸近くのアシ原の近くで灯火採集によって得られた。土器川河口でも、アシ原に面した場所での灯火採集で得られた。

本種は国内からは北海道、本州(神奈川, 福井, 京都, 広島, 山口), 九州(熊本, 鹿児島), 沖縄の記録が、国外からは台湾, 中国, インド, 東南アジアから記録があるが、四国からの記録は無いようである。

日本産で本種に外形がよく似ている種に *S. schuelkei* FRISCH (2.8~3.4 mm) がいるが、本種(3.2~3.6 mm)の方が少し大型であることや、雄第8腹板や雄交尾器の形状で区別できる。なお、*S. schuelkei* は四国からの記録はなく、本州, 九州, 屋久島; 台湾, 香港, 中国, 東南アジアに分布している。

2. *Erichsonius sawadai* UHLIG et Y. WATANABE
3♂♂, 2♀♀, 香川県まんのう町塩田, 18. III. 2007.
ため池の水際のリターから得られた。北海道(大沼公園), 本州(岐阜)からの記録があるが、四国からはこれまで未記録であった。

体長も同じくらいで四国からも知られているツヤヒメホソハネカクシ *E. japonicus* (CAMERON) とは、頭部と胸部の点刻がまばらで上翅も短く、雄交尾器の形が異なることで区別される。

末筆になったが、本稿の発表を勧めいただき、種々ご教示いただいた柴田泰利氏に厚くお礼申し上げます。

参考文献

FRISCH, J., 2003. A revision of the *Scopaeus laevigatus* species group, with descriptions of ten new species from the east Palaearctic, the Oriental and the Australian regions (Coleoptera, Staphylinidae, Paederinae). *Memoirs on Entomology International*, 17: 649-725.

UHLIG, M. et WATANABE, Y., 1992. Revision of the Japanese species of the genus *Erichsonius* FAUVEL (Coleoptera, Staphylinidae, Philonthini). *Mitteilungen aus dem Zoologische Museum in Berlin*, 68: 3-92.

(香川県綾歌郡宇多津町, 藤本博文)

○北海道未記録と思われる甲虫の記録

北海道の甲虫に関する文献記録は膨大で、全てを参照することは極めて困難である。筆者は、可能な限りで文献を調べ、その結果、次の5種については北海道未記録と思われたため記録しておく次第である。

Caenoscelis kurosai SASAJI ヘリムネキスイ
1 ex., 北海道様似郡様似町幌満, 23-24. IX. 2007.

Biphyllus rufopictus (WOLLASTON) ハスモンムクゲキスイ
2 exs., 北海道松前郡福島町千軒, 17. VIII. 2008.

Cicones rufosignatus SASAJI ベニモンヒメヒラタホソカタムシ
1 ex., 北海道松前郡松前町大沢, 18. VIII. 2008.

Cicones niveus SHARP クロモンヒメヒラタホソカタムシ
1 ex., 北海道様似郡様似町幌満, 23-24. IX. 2007.

Parabaptistes reitteri (LEWIS) アカバヒゲボソコキノコムシ
1 ex., 北海道島牧郡島牧村太平山, 30. IX. 2007.

(北海道俱知安町, 柏崎 昭)

東京都檜原村三頭山「檜原都民の森」で FIT により採集したアリヅカムシ、
イトヒゲニセマキムシおよびクロアリヅカエンマムシ

野村 周平

Pselaphine Species (Staphylinidae), *Dasycerus* (Staphylinidae) and
Hetaerius (Histeridae) Collected by FIT from Mt. Mitōsan
(Hinohara-tomin-no-mori), Tokyo, Central Honshu, Japan

Shūhei NOMURA

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館動物研究部

先に2004年夏、山梨県の2箇所でFITにより採集されたアリヅカムシ類を報告したが、2008年7月、同様に東京都檜原村の「檜原都民の森」において、FIT調査を行なった。この結果、20種ほどのアリヅカムシが採集され、その多くが、東京都初記録となるものであった。また同じく東京都初記録となるイトヒゲニセマキムシおよびクロアリヅカエンマムシを同じFIT調査で得ているので、あわせて報告する。なお、東京都におけるコウチュウ目(鞘翅目)の記録は、ウェブサイト「東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト」(2008年9月アクセス)によった。

「檜原都民の森」(図1A, B)におけるFIT調査は下記の要領で行なった。2008年7月9日に当地を訪れ、園内の3箇所に高所FIT(図1C)6基、地上FIT(図1D)6基を設置した。その後一週間ごとに3回当地を訪

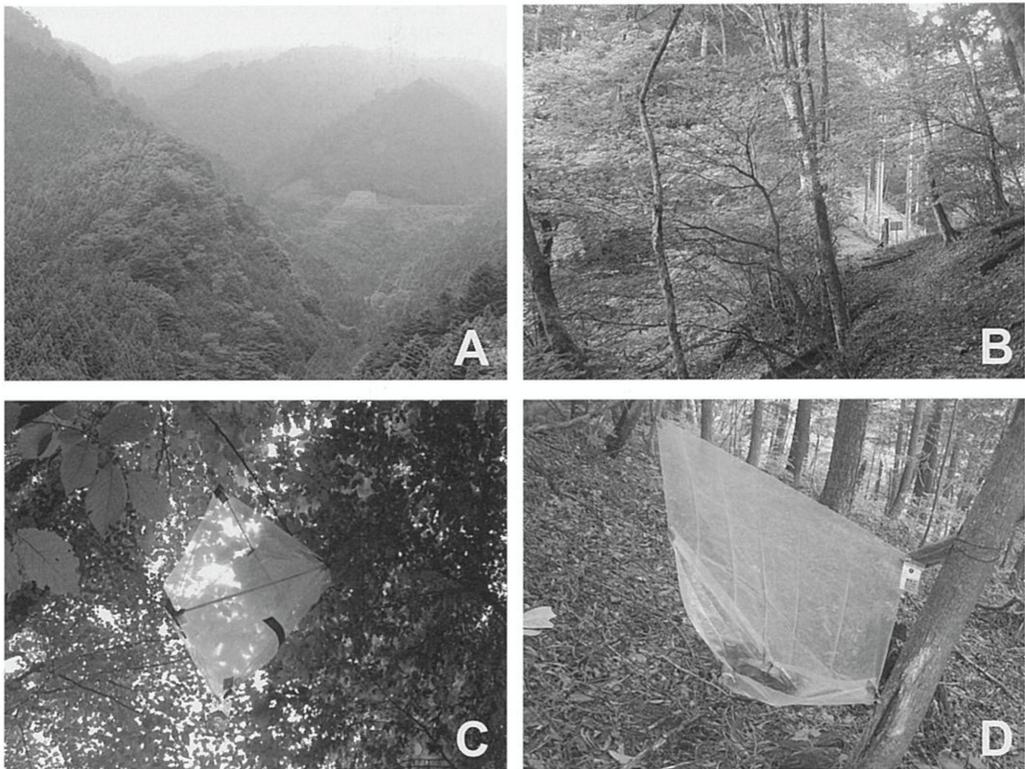


図1. A. 調査地(東京都檜原都民の森)遠望, B. 調査地の景観(鞘口峠付近), C. 調査中の高所FIT, D. 調査中の地上FIT.

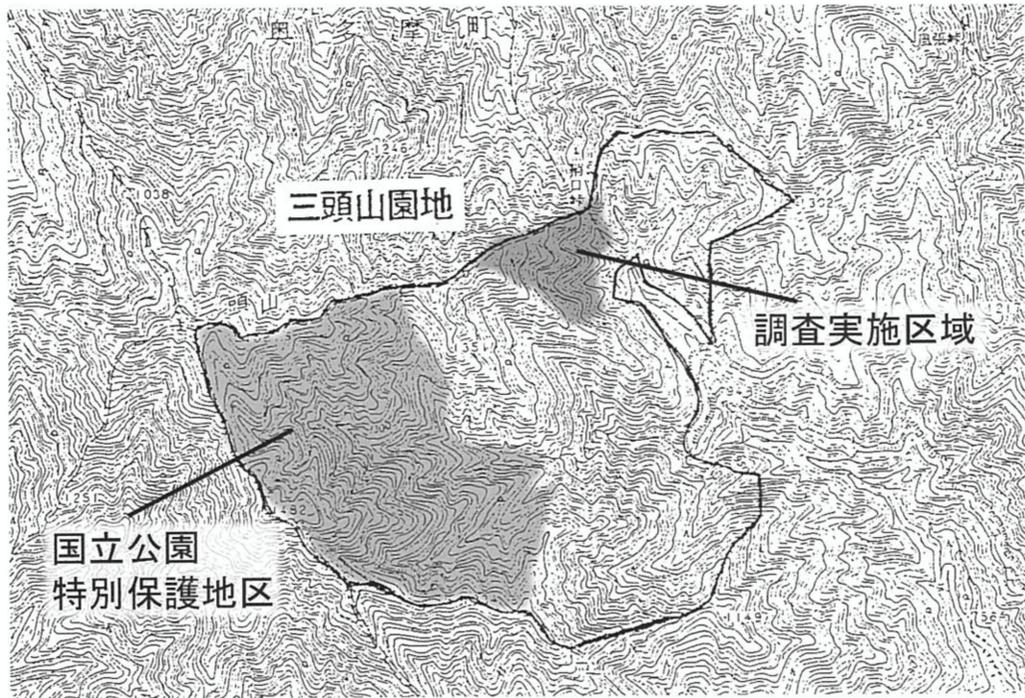


図2. 調査実施地域の位置.

れ、FITの回収と再設置を行った。この調査には山梨県で使用したのと同じ2種類のトラップ（高所FITおよび地上FIT）を使用した。この調査は帝京平成大学の高野宏之氏の博物館実習として行ったものであったので、各標本の採集者は高野氏および野村である。

東京都「檜原都民の森」は、東京都の西端部、奥多摩地域の一角にあり（図2）、標高約1,000~1,500 m、ブナ、ミズナラの天然林が残されている。当地は三頭山(1,531 m)の南東斜面に位置し、秩父多摩甲斐国立公園に含まれており、一部は特別保護地区に指定されている。今回調査を実施した地点は、当園地内の東側で、特別保護地区には該当しないが、隣接地ということで、環境省関東地方環境事務所および東京都環境局の指導と監督の下で行った。ちなみに2004年に調査を行なった大月市松姫峠からは東方へ直線距離で約5 km隔たっている。

調査結果のデータは以下のように略記した。H1~H3は高所FITで、H1: 7月9~16日; H2: 同16~23日; H3: 同23~30日。G1~G3は地上FITで、G1: 7月9~16日; G2: 同16~23日; G3: 同23~30日である。

*印で示した種は東京都から初めて記録される種である。

〈採集結果〉

Staphylinidae ハネカクシ科: Pselaphinae アリヅカムシ亜科

Euplectitae ナガアリヅカムシ上族

1. *Euplectus* sp. 1 ナガアリヅカムシの一種* (図3A) 1♀ H1.
 2. *Euplectus* sp. 2 ナガアリヅカムシの一種* (図3B) 1♀ H1.
 3. *Euplectus* sp. 3 ナガアリヅカムシの一種* (図3C) 1♂ G1; 2♂ G2.
 4. *Euplectus* sp. 4 ナガアリヅカムシの一種* (図3D) 2♂ G2.
 5. *Trimium?* sp. ナガアリヅカムシの一種* (図3E) 1♀ H1; 1♀ G1; 1♂ G2.
 6. *Bibloporus ponderosus* KURBATOV チシマキカワアリヅカムシ* (図3F) 1♀ G1; 1♀ H2.
 7. *Piptoncus* sp. ヨコヅナキカワアリヅカムシの近似種* (図3G, H) 1♂ 2♀ G1; 2♂ 2♀ G2; 1♀ G3.
- Batrisitae ムネトゲアリヅカムシ上族
8. *Batrisodes (Excavodes)* sp. 1 (*angustus* group)* (図3I) 1♂ H3.
 9. *Batrisodes (Excavodes)* sp. 2 (*angustus* group)* (図3J) 1♂ G2; 1♂ H3.
 10. *Batrisodes (Pubimodes)* *harmandi* RAFFRAY* (図3K) 1♂ G1.

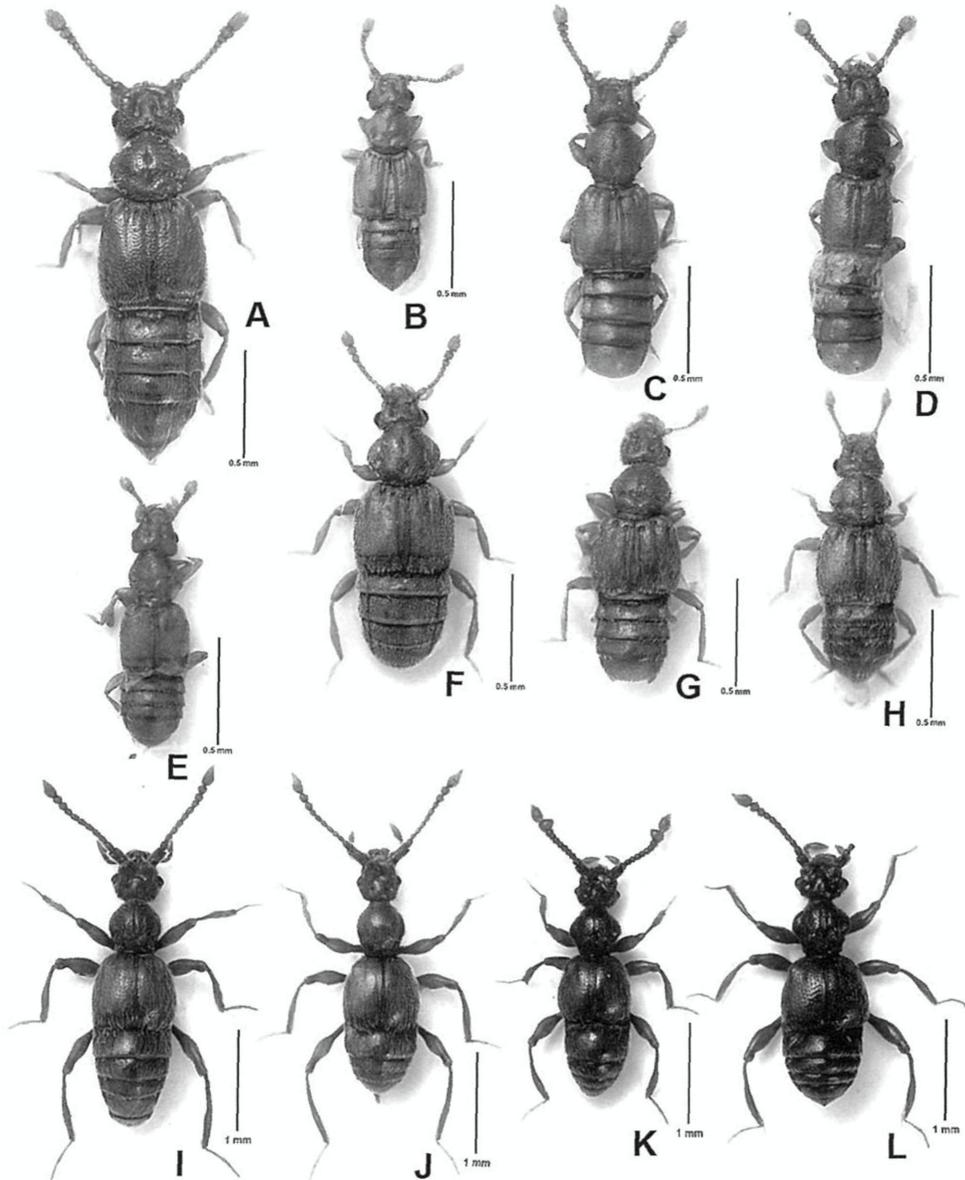


図3. 採集されたアリヅカムシ1. — A. *Euplectus* sp. 1, B. *E.* sp. 2, C. *E.* sp. 3, D. *E.* sp. 4, E. *Trimium?* sp., F. *Bibloporus ponderosus* KURBATOV チシマキカワアリヅカムシ, G. *Piptoncus* sp. ♂, H. 同左 ♀, I. *Batrisodes* (*Excavodes*) sp. 1, J. *Batrisodes* (*E.*) sp. 2, K. *Batrisodes* (*Pubimodes*) *harmandi* RAFFAY, L. *Batrisodellus* sp.

11. *Batrisodellus* sp. トガリムネトゲアリヅカムシの近似種* (図3L) 1♀ G1.
12. *Tribasodes* sp. ホソムネトゲアリヅカムシの一種* (図4A) 1♂ G1; 1♂ G2.
13. *Batrisoschema euplectiforme* (SHARP) クチキムネトゲアリヅカムシ* (図4B, C) 1♂ 1♀ G3.
14. *Batrisoplisus* sp. フサヒゲアリヅカムシの一種* (図4D) 1♂ H1; 1♂ G1.
15. *Batriscenellus* (*Scaioscenellus*) *similis* (SHARP) アナバラアリヅカムシ (図4E) 1♂ G1; 1♂ H2; 2♂ G3.
Goniaceritae オノヒゲアリヅカムシ上族
16. *Bryaxis harmandi* RAFFRAY アルマンオノヒゲアリヅカムシ (図4F) 2♂ G1; 1♂ G2; 2♂ G3.

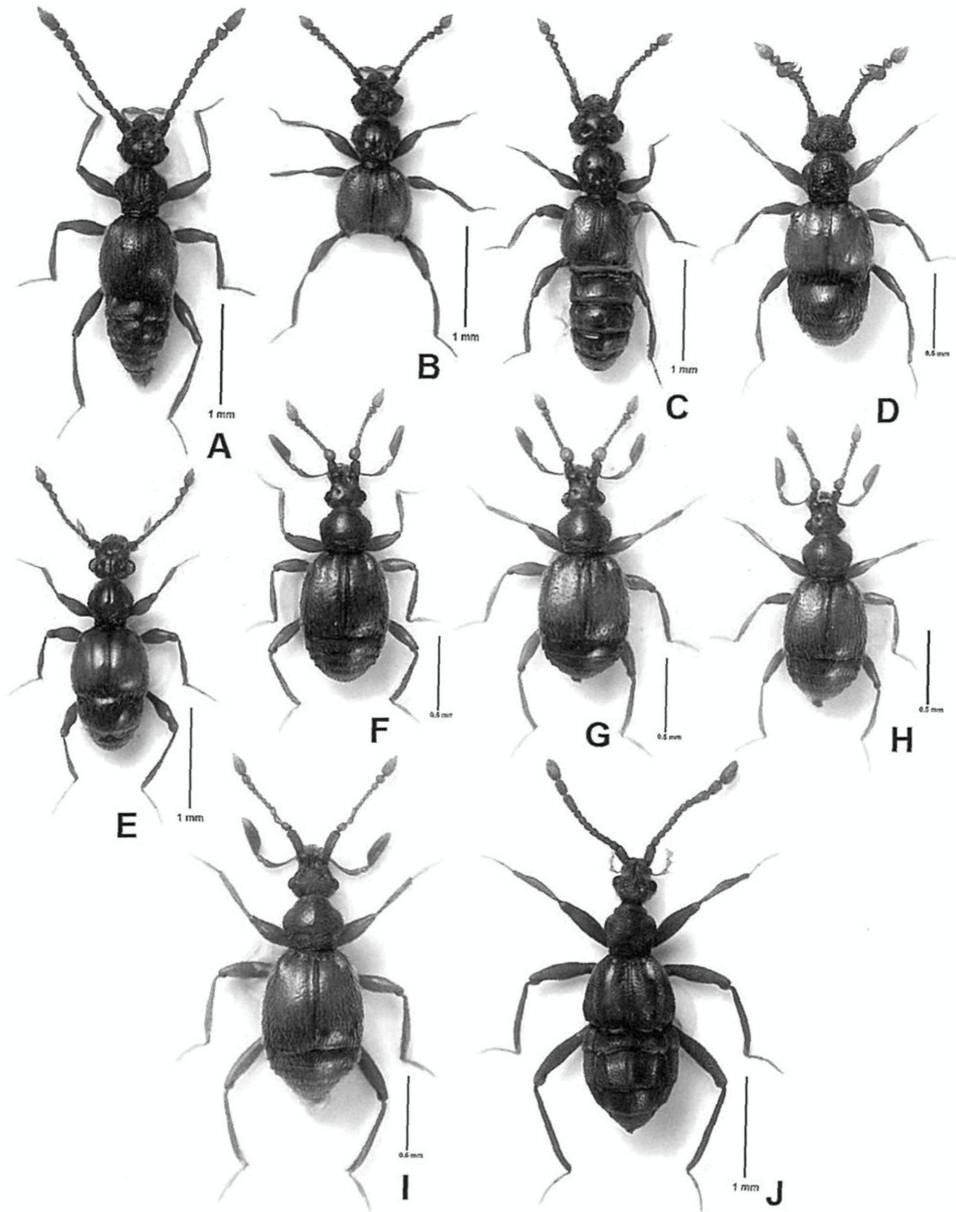


図4. 採集されたアリヅカムシ 2. — A. *Tribasodes* sp., B. *Batrisoschema euplectiforme* (SHARP) クチキムネトゲアリヅカムシ♂, C. 同左♀, D. *Batrisoplisus* sp., E. *Batriscenellus (Scaioscenellus) similis* (SHARP) アナバラアリヅカムシ, F. *Bryaxis harmandi* RAFFAY アルマンオノヒゲアリヅカムシ, G. *B. jomon* LÖBL *et al.* ジョウモンオノヒゲアリヅカムシ, H. *B. japonicus* (SHARP) ヤマトオノヒゲアリヅカムシ, I. *Bythoxenites sulcithorax* TANOKUCHI ネジレカマヒゲアリヅカムシ, J. *Tmesiphorus crassicornis* SHARP ヒゲカタアリヅカムシ.

17. *Bryaxis jomon* LÖBL *et al.* ジョウモンオノヒゲアリヅカムシ* (図4G) 4♂ G2; 1♂ G3.
 18. *Bryaxis japonicus* (SHARP) ヤマトオノヒゲアリヅカムシ (図4H) 1♂ G2.
 19. *Bythoxenites sulcithorax* TANOKUCHI ネジレカマヒゲアリヅカムシ (図4I) 1♂ G2; 1♂ G3.

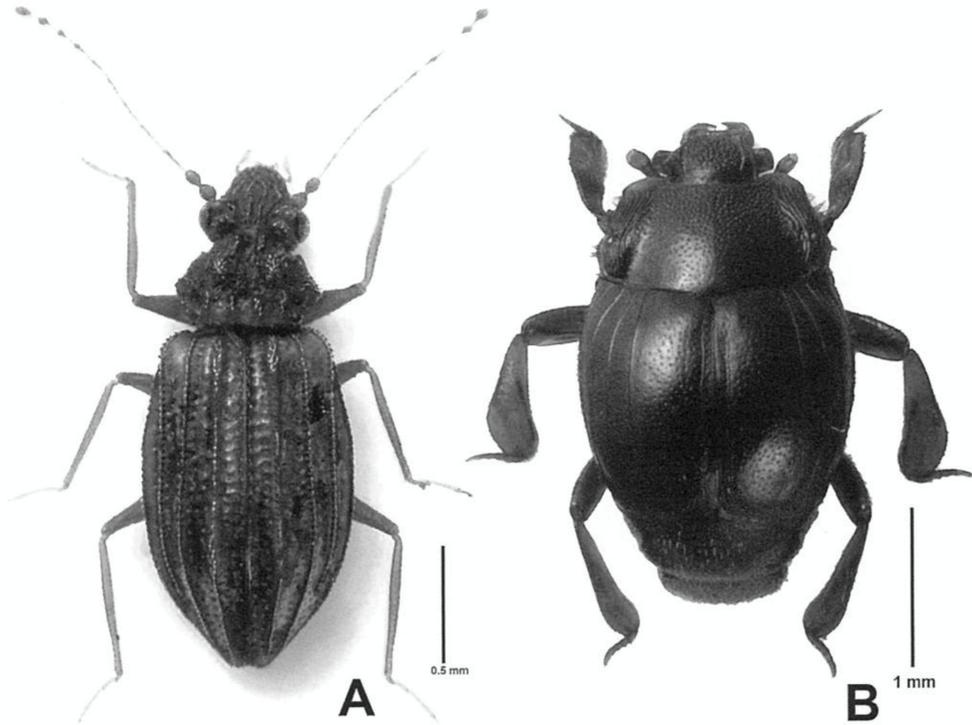


図5. 採集されたイトヒゲニセマキムシ(A)とクロアリヅカエンマムシ(B).

Pselaphitae ヒゲナガアリヅカムシ上族
20. *Tmesiphorus crassicornis* SHARP ヒゲカタアリヅカムシ(図4J) 1♀G2.

Staphylinidae ハネカクシ科: Dasycerinae ニセマキムシ亜科
1. *Dasycerus japonicus* NAKANE イトヒゲニセマキムシ*(図5A) 1 ex. G1; 1 ex. G3.

Histeridae エンマムシ科
1. *Hetaerius optatus* LEWIS クロアリヅカエンマムシ*(図5B) 1 ex. G1; 1 ex. G3.

〈考察〉

今回のFIT調査で20種のアリヅカムシを確認できたが、この数は先に報告した山梨県2箇所の結果とまったく同数である。山梨県では2箇所1回で20種、三頭山では1箇所3回で20種ということになり、状況としては非常に似ている。種構成の面からも、共通種が8種(7, 8, 12, 14~18)とかなり多い。

一方注目すべきは、東京都初記録種が非常に多いことである。「東京都本土昆虫目録作成プロジェクト」のウェブサイト(2008年9月アクセス)によると、東京都からはすでに54種のアリヅカムシが記録されているが、今回の調査で得られた種のうち過去に都内から記録のないものは13種(全体の65%)に上る。このように初記録種が多い理由は次の2つが考えられる。

一つはこれらがFITによって採集されたものであり、土壌や枯木の甲虫採集によって採集される種とはかなり異なっているという点である。これは山梨県のFIT調査によっても同様の傾向が見られ、非常に興味深い。

もう一つは東京都のファウナ調査自体が不十分であるという点である。東京都本土部の自然環境は大きく4つくらいに分けられる、すなわち、1)市街地、2)都心の二次的照葉樹林(皇居など)、3)クヌギ、コナラ主体の里山林(いわゆる武蔵野)、4)ブナ、ミズナラ主体の奥山林である。今回の調査地は4)に属するが、この区域は標高差も大きく、きわめて高い生物多様性を擁していると考えられる。しかしながら、今回の調査結果に現れているように、この区域での生物相調査が十分でないことは、大変残念である。

今後は、調査場所を増やしたり、異なる時期に調査を実施することによって、アリヅカムシの種数は大幅に増えることが見込まれる。FIT 調査を継続し、情報を集積することによって、地域固有のファウナの解明がさらに進むことが期待される。

謝 辞

本調査は、科博経第 88 号により平成 20 年 7 月 2 日付国立科学博物館動物研究部長名で承認願いを提出し、平成 20 年 7 月 4 日付 20 環自緑第 314 号にて受領した承認文に基づいて実施した。

上記の承認申請手続きに関し、ご協力を賜った東京都環境局自然環境部の中山恵理様に厚く御礼申し上げます。また、調査の実施に際して同行いただき、さまざまの援助をいただいた、東京都檜原都民の森管理事務所の浦野守雄様にも厚く感謝の意を表したい。さらに秩父多摩甲斐国立公園の特別保護地区に関してご指導いただいた、環境省奥多摩自然保護官事務所の中川春菜様に心より感謝申し上げます。また、調査の実施にあたってご助力をいただいた、帝京平成大学の高野宏之氏に厚く感謝する。

○ツノブトホソエンマムシの九州における記録

ツノブトホソエンマムシ *Niponius obtusiceps* LEWIS は 1885 年に LEWIS が新属新種として他の 3 種と共に記載した種である。極めて稀な種らしく原記載の産地として熊本県夫矢山、北海道石狩川があげられ、その後、本州からも知られている。筆者は福岡県において本種を採集したので記録する。



1 ex., 福岡県東峰村浅間山 (標高 700 m 付近), 31. VII. 2008, 城戸 克弥採集。

胸高直径 50 cm 程のウリカエデの比較的新しい倒木があり、あちらこちらにキクイムシが木くずを吹いていたが、その材の上を這っていたもの。

(福岡県大野城市, 城戸克弥)

◇会 告◇

日本鞘翅学会では、甲虫類の和名の安定をはかるため、以下に掲げる「甲虫の和名に関する検討委員会 (略称: 和名検討委員会)」を設置し、必要に応じて討議、声明、調整などの措置を行うこととする。

組織 委員長 野村周平, 副委員長 高桑正敏, 委員 新里達也 (会長), 岸本年郎, 露木繁雄, 大原昌宏, 鈴木 互。

原則 1) 本委員会は昆虫綱コウチュウ目 (= 鞘翅目) の和名に関して、その安定性に寄与しようとするものである。2) 上位分類群の和名に関する諸学会の決定と矛盾のないように調整を行う。3) 決定事項はそのすべてにおいて、会員および甲虫の和名に関与するすべての人々に対して公開する。

以上の各項目について、本学会の拡大幹事会 (2008 年 11 月 21 日) で検討した結果、原案通り承認された。さらに翌日の総会において委員長から報告を行った。これにもとづき本委員会では、和文誌 (甲虫ニュース) およびウェブサイト上において、下記の声明を発表、掲示することとした。

日本鞘翅学会 和名検討委員会 声明

001 号勧告

2008 年 11 月 22 日

以下に示す甲虫の分類群について、本委員会は、和名を「ルリクワガタ」とすべきであることを勧告する。

所属: クワガタムシ科

分類群名 (学名): *Platycerus delicatulus* LEWIS, 1883

当該分類群に用いられるべき和名: ルリクワガタ

当該分類群に用いられる和名のシノニム: オオルリクワガタ

参考文献: IMURA, Y., 2007. *Elytra*, Tokyo, 35: 471-489.

まったことが印象深い大会であった。開催にご尽力頂いた実行委員長の酒井雅博先生をはじめ、愛媛大学昆虫学研究室の皆様にお礼申し上げたい。

(庶務幹事：岸本年郎)

○チャイロヒメコメツキの大井川上流における記録について

旧教育大学付属駒場高校生物部は1961年から1967年にかけて、大井川の上流にあたる静岡県二軒小屋周辺において昆虫相の調査を行なっている。当時、最も精力的に採集されたカミキリムシ科については筆者が既にまとめを報告しているが(大木, 2007)、その他の甲虫については未報告のままであり、当時採集された標本を調べ直している。

2008年度に松山で開催された鞘翅学会の同定会で持参したところ、それらの中にチャイロヒメコメツキ *Sericus brunneus* (LINNÉ) の標本があることが判明したので報告する。

1♀, 大井川西俣, 27. VII. 1967, 朝比奈弘治採集。

同定していただいた尾崎俊寛氏によれば静岡県周辺では相当に稀な記録であるとのことである。

本報告を執筆することへのアドバイスをいただいた尾崎俊寛氏に心からの感謝を申し上げる次第である。

引用文献

大木 裕, 2007. 教諭生物部関係者による静岡県二軒小屋集周辺のカミキリムシ科の記録目録. 神奈川虫報, (159): 17-27.

(横浜市青葉区, 大木 裕)

◇会計報告◇

1. 2007年度決算(2007年1月1日~12月31日)

収 入	予 算	決 算	増 減
前年度繰越金	2,000,000 円	2,123,160 円	123,160 円
会費	4,200,000	4,335,000	135,000
広告費	60,000	100,000	40,000
出版物売上金	50,000	206,080	156,080
雑収入	0	171,375	171,375
合 計	6,310,000	6,935,615	625,615

支 出	予 算	決 算	増 減
会誌印刷費 (Elytra)	2,200,000 円	1,889,705 円	△310,295 円
会誌印刷費 (甲虫ニュース)	1,000,000	1,001,700	1,700
会誌送料	720,000	753,497	33,497
通信費	150,000	20,000	△130,000
事務費	150,000	141,473	△8,527
大会助成費	100,000	100,000	0
予備費	50,000	13,440	△36,560
次年度繰越金	1,940,000	3,015,800	1,075,800
合 計	6,310,000	6,935,615	625,615

2. 特別会計 2007 年度決算

収 入	支 出
前年度繰越金	3,222,275 円
利息	3,495
ELYTRA35 (1)	1,156,450 円
印刷補助	
振込手数料	315
次年度繰越金	2,069,005
合 計	3,225,770
合 計	3,225,770

(会計担当, 齊藤明子)

◇会員動静◇

(2007年11月~2008年10月)

◇原稿の送付・問い合わせ先◇

原稿をワープロ等で作成される場合は、刷り上がり2頁を越える報文は1行49字、短報は1行23字にそろえ、CDと印字した原稿を1部つけて下記宛へお送りください。附図がない場合には、連絡先をご明記の上、電子メールに添付(一太郎かワード)してお送りください。また、別刷り等をご希望の際は、投稿時に申し出てください。初校の際に申込書をお送りします。

〒156-0035 東京都世田谷区桜3-14-13

鈴木 互

E-mail: elater@b08.itscom.net

◇学会の発行物・バックナンバー販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒102-0075 東京都千代田区三番町24-3

三番町MYビル3階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>

甲虫ニュース 第164号

発行日 2008年12月30日

次号は2009年3月下旬発行予定

発行者 新里達也

編集者 鈴木 互(編集長)、長谷川道明、川島逸郎、
奥島雄一、吉富博之

発行所 日本鞘翅学会

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1

国立科学博物館昆虫第2研究室

電話 03-3364-2311

原稿送付先(甲虫ニュース) 鈴木 互

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-14-13

電子メール: elater@b08.itscom.net

印刷所 (株)国際文献印刷社

年会費 2008年度 7,000円(一般会員)

郵便振替口座番号 00180-3-401793

ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jsc2/index.html>

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他、採集、製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051 東京都品川区平塚2丁目5番8号

郵便振替 00130-4-21129

電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社